

清水合金製作所

アクアシリーズ

数珠つなぎ②

環境事業部
水処理事業課係長 山口 哲也 氏

イチオシ!

管理釣り場にレンタル
迅速な対応強く印象に

続いては山口哲也・環境事業部水処理事業課係長。台風で被災した山間部の管理釣り場にアクアレスキューレンタルされた事例を紹介する。

山口氏は入社から15年間、水処理部門一筋で技術開発と営業活動に携わってきた。「今年1月の組織改正で技術と営業部門を分ける体制となり、現在は営業を担当しています。以前は技術営業としてお客様と対面し、水処理に関する様々なご相談を承りました」と話す。

2019年10月は台風19号の通過・上陸に伴い、全国各地で河川氾濫や土砂災害などの水害が多発した。神奈川県相模原市の山間部にある管理釣り場では、専用水道の取水施設が崩壊して施設管理棟が断水となり、営業を停止した。

「釣り場を管理する漁業生産組合は、棟内のレストランやトイレなどで使用する浄水を早急に確保するため、浄水装置をインターネット検索されてアクアレスキューレンタルを知ったそうです。本体がコンパクトで、狭隘な場所にでも設置できるのではと期待されて、弊社に連絡頂きました」と振り返る。

問い合わせの翌日には早々に現地に駆けつけた。「フットワークの軽さが印象的とお褒め頂き、翌日にも設置作業を開始できると説明したところ、対応の迅速さに大変驚かれました。レスキューレンタルは過去に数多くの被災現場の応急給水や仮設給水の現場で活躍した実績があり、企業として体制がしっかり整っている様子に安心頂けたようです」と語る。

2019年12月から21年12月末までの2年契約で、1日最大処理量50立方メートルのアクアレスキューレンタル1台を決まり。組合は設置作業に先立って約1カ月間、原水とする早戸川から施設管理棟付近まで取水用の水路を引き込む土木工事を行うなど、受け入れ準備を進めた。



片扉から搬入可能で、狭い軒下にも設置できる

アクアレスキューレンタル

管理棟の軒下にレスキューレンタルを設置し、既設のタンクに净水を送水する。1日平均給水量は15立方メートルで、水需要が急増する繁忙時間帯も余裕をもって運転できる。

山口氏は設置環境や運用体制を丁寧にヒアリングし装置構成に反映させる。「山間部の半屋外に設置するため、凍結対策としてユニット外部の配管にパイプヒーターと保温材を巻きました。また、管理棟には職員が夜間も常駐されるため、高濁度対策の前処理装置は敢えて設置していません。高濁度時は運転を停止し、取水ポンプを引き揚げて対応されています」と説明する。

迅速かつきめ細やかな対応が実を結んだ。「レンタル契約期間の終了後は購入頂きます。上質な净水を安定的に供給できる本製品を今後も長く使い続けたいと嬉しい言葉を頂戴しています」と笑顔を見せる。

今後の意気込みは「近年は総務や防災部局、民間からも引き合いが強く、納入実績は年々伸びています。高まる期待に応え、お役に立てるものづくりと拡販に尽力したい」と力強く語った。



水処理部門一筋で、様々な技術相談に対応してきた

伊藤教授のコメント



本件の場合、まずは初動対応の迅速さが注目される。これは本装置が災害時に速やかに設置できることを念頭に開発され、実際に導入実績・経験を多く有すること可能になったものとみられる。まさに「レスキューレンタル」という製品名にふさわしい。

また、導入形態がレンタルである点にも注目したい。水道事業体が抱える困難な課題に対応するため、最近、水道事業者やメーカーによって数多くの創意工夫やアイデアが提示されてきている。浄水処理装置についても、頑強で長寿命な構造物を建設することが適切でないケースが多く、将来の需要変動に対応可能である必要がある。レンタルやリースといった導入形態もその一つとなりうる。一方、そのような創意工夫やアイデアが実装されるのを妨げない、あるいは支援するような制度やしくみを整備する必要もあるだろう。